



水と人が奏でるハーモニーのまち

宝達志水町

議会だより

平成29年11月1日 発行

■発行

石川県宝達志水町議会
〒929-1492

石川県羽咋郡宝達志水町子浦そ18-1

TEL (0767) 29-8310 (直通)

FAX (0767) 29-4623

■編集

宝達志水町議会

広報編集特別委員会

第50号



常任委員会の合同視察研修地の沖縄国際大学
(沖縄県宜野湾市)

■平成29年第3回定例会 2

■議案に対する質疑 4

■一般質問 (5名) 5

■委員会ノート 10

■常任委員会合同視察報告 12

■町議会日誌 14

主な記事



定例会

平成29年第3回
9月7日～15日



(一般会計補正予算の採決の様子)

第3回町議会定例会が9月7日から15日までの9日間で開催されました。

今回は、議決案件として平成29年度の補正予算3件、条例の改正1件が提出され、いずれも可決されました。また、報告案件として専決処分の報告1件、事業会計継続費精算報告書の報告1件、平成28年度決算に基づく健全化判断比率等が報告されました。

なお、平成28年度の決算認定9件は、決算特別委員会を設置し、そこで審議することが決まりました。

平成29年度補正予算

会 計 名	補正前の予算額	補正予算額	採決の状況	補正後の予算額
一 般 会 計	67億9,293万3千円	5億7,412万8千円	賛成8、反対2、 棄権1で可決	73億6,706万1千円
特別 会計				
国民健康保険	19億887万円	1,845万8千円	全員賛成で可決	19億2,732万8千円
介護保険	18億22万6千円	1,974万6千円	〃	18億1,997万2千円

補正予算の主な内容

○一般会計

減債基金積立金	1億3,400万円
宝の土地活用推進事業費 (測量設計委託料)	292万7千円
障害者自立支援給付事業費 (過年度国庫負担金返還金等)	468万9千円
県単荒廃地復旧事業費 (山地地すべり復旧工事)	450万円
小学校施設管理費 (防犯カメラ設置工事)	455万4千円
中学校維持補修費 (グラウンド排水側溝工事)	244万9千円
償還元金(長期借入金)	4億933万3千円

○国民健康保険特別会計

国庫負担金等返納金	1,190万円
療養給付費交付金返納金	655万8千円

○介護保険特別会計

国庫支出金等過年度分返還金	1,592万9千円
---------------	-----------



◎条例の改正

- 地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例
- 介護保険法施行規則の一部改正に伴う改正

〔全員賛成〕

◎専決処分の報告

- 損害賠償の額を定め和解することについて

・損害賠償額

37万8,400円

〔全員賛成〕

◎その他の報告

- 平成28年度国民健康保険志雄病院事業会計継続費精算報告書
- 平成28年度決算に基づく健全化判断比率等

◎平成28年度決算認定

- 一般会計
- 国民健康保険特別会計
- 後期高齢者医療特別会計
- 介護保険特別会計
- 国民健康保険直営診療所特別会計
- ケーブルテレビ事業特別会計
- 水道事業会計
- 下水道事業会計
- 国民健康保険志雄病院事業会計

以上の9会計の決算認定

は、決算特別委員会で審議されます。

◎特別委員会の設置

第3回定例会で9会計の決算を審議するために決算特別委員会が設置されました。

委員長	久保 喜六
副委員長	小島 昌治
委員	金田 之治
委員	守田 幸則
委員	林 一郎
委員	土上 猛



(県単荒廃地復旧事業箇所〔荻谷地区〕)

議案に対する 質疑



守田幸則議員

質 宝達志水町マラソン開 催準備費について

このマラソンは、ハー
マラソンであると聞いて
いる。それならば、当
然、公認という問題も出
てくると思うが、現在、
公認はどうなっているの
か、また、コースの道路
使用に対しても許可がな
ければ開催をできないと
思う。今、準備段階であ
るとしてもその見込みが
なければ予算化には、踏
み切れないと思うがい
かが。

また、この宝達志水町
マラソンは新規事業だ
と思うが、町の交流人口
を増やすための一大イベ
ントであるならば、なぜ、
全員協議会、もしくは
提案理由の説明の中で、
もっと詳しく、よりよい
形で説明がないのか。大
きな新規事業であるにも
かわらず、中身の詳細
がなかなか見えない。ま
た、この事業のため関係
者が5月頃から集まり、
協議をしていると聞いて
いるし、準備委員会を立
ち上げたとも聞いている
しかし、このことは6月
議会や7月の臨時会でも
説明がなかった。詳しい
中身までは別にして、常
に議会と相談をしながら
事を進めると言うならば、
早いうちに説明すべきで
あったと思うが。

※質疑とは、本会議に議
題として提出された議
案等について、議員が
疑義を提出者（町長）
に質問すること。



答 町長

詳細が固まってきたの
が、最近であるため、6
月議会や7月の臨時会で
報告ができなかった。そ
して、これから本格的に
準備を進めるために補助
金を予算計上した。また、
公認や道路使用許可につ
いては準備委員会で作業
を進めていると聞してい
る。

質 ふるさと農道整備事業 費について

この事業費は提案理由
の中で北川尻地内の未
買収区間の相続人の調
査としているが、この
100万円で相続人調査
を終えた後、どのような
形でこの事業が進められ
ていくのか、また、事業
費は最終的にどの程度が
必要かを示して欲しい。
なお、この計画は、以前
には今浜地内までの計画
があったと聞いており、
その計画は、まだ、なく
なっていると思う。

また、以前に米出地区か
ら、能登有料道路（のと
里山海道）の無料化に伴
い、地区内の交通量が増
えてきたため、この計画
を復活して欲しいとの要
望もあったと覚えている。
そこで、この、ふるさと
農道は、今浜地区まで計
画を進めていくのか聞く。
加えて、このふるさと農
道の整備には、長い年月
がかかっており、その間、
関係する法律も変わって
きているが、それに対応
できるような形が整えら
れてきたのかどうか。

答 町長

また、米出地区の要望に
も早く応えて欲しい。
ふるさと農道整備に必
要な額は現状では判らな
い。相続人等の調査を行
い、確定させたい。また、
米出地区からの要望は承
知しており、今後、地区
住民の安全と、のと里山
海道の有効活用が図られ
るような道路整備計画を
検討したい。

～議会一口メモ～

議会の権限（その3）

○検査権及び監査請求権

町長やその他の執行機関の行なう町の事務管理や金銭の出納等が、町民の期待どおりに公正かつ効率的に行われているかを監視するための権限です。

議会は、町の仕事にかかる書類や計算書を検閲すること等により、状況を検査することができます。また、必要があれば監査委員に監査を求め報告を受けます。そして不当な事実があれば執行機関の責任を問いたすこととなります。

○調査権

地方自治法第100条に規定されていることから「百条調査権」といわれ、町政全般について議会独自に調査を行なう権限です。調査にあたっては強制力が与えられ、議会は関係者に出頭や証言、記録の提出などを求めることができ、正当な理由なしに拒否した者には処罰規定があり極めて強力な権限です。

○意見書提出権

本来は町の仕事ではなくても、町に深い関わりのあることならについて、国会及び国や県などの関係行政庁に対して意見書を提出し、議会としての意思表示をすることができます。

○請願及び陳情の受理

議会は、町政などについての要望を、請願書・陳情書という文書により受理し、委員会に付託された請願・陳情は、慎重に審査されます。

町政を問う

一般質問

(町政全般にわたる質問)

交通弱者・買い物弱者対策について

(ほか、1件)

町長

「交通弱者や買い物弱者の支援策を充実させていきたい。」



塚本勇仁 議員

問 交通弱者・買い物弱者対策について

交通弱者、買い物弱者と言われる高齢者、また、今後、運転免許返納による交通弱者が増大していくと思われる。その対応策としてコミュニティバス、デマンドタクシーの運行を今後、以上に充実していかなければならないと思うが、現状のコミュニティバスの利用状況はどうなのか。また、聞くところによるとコミュニティバスよりデマンドタクシーのほうが、自宅前から目的地まで運行してもらえるので、便利で使い勝手がいいという声が聞こえてくることから、コミュニティバスからデマンドタクシーに一部変更できないか。

また、一部デマンドタクシーの運転者の接客態度が悪いということとを聞くが、それを改善し、より一層の接客の向上を求めたい。

答 町長

本町が住みたい町、住み続けたい町になるためには、交通弱者、買い物弱者の支援を充実させていくことが必要だと考えている。しかし、コミュニティバスは空席が目立つ状況である。一方、デマンドタクシーは、高齢化が進む中、自宅前から目的地まで利用できる安全で便利な移動手段として年々需要は多くなってきている。今後、それぞれの長所を生かし、効率的な地域交通を確保するため、利用状況や利用者の意見を参考にし、対応策を検討していきたい。

なお、一部デマンドタクシーの運転者の接客態度の改善については、利用者の意見は真摯に受けとめ、委託業者に対し、指導を徹底したい。

問 7月1日、2日に発生した豪雨災害について

農林土木関係の被害額はいくらか。また、町の関連施設の被害額はいくらなのか。これらの被害の災害査定が一部始まっているように思われるが、全体の終了予定はいつごろなのか。また、それらの復旧工事はいつごろの予定なのか。そして、その予定で来春の耕作に間に合うのか。なぜなら山間地域では、年末までに水田に水を張っておかないと来春の耕作ができないため、復旧の工程について聞く。宝達志水町は多くの山間地域を抱えており、その耕作にあたっては高齢者が耕作を行っているが、この災害により、耕作をやめようかと考えている耕作者がいると聞いている。また、災害復旧工事をするにも受益者負担金が工事金額の

30%、50%必要となると耕作意欲がなくなり、耕作放棄地が、ますます増大し、山間地域の崩壊につながりかねないため、受益者負担の引き下げや町独自の支援策を行わないのか聞く。

答 町長

災害復旧額は、農林係では約1千800万円余



(豪雨で被災した町道〔原地内])

りを見込んでいます。また、公共土木関係では、道路や河川の復旧工事費として1千100万円、地すべり災害の復旧工事費として2千万円を見込んでいます。いずれも今年度中に完了する予定である。なお、災害復旧工事に対する町独自の支援策は、今後、近隣市町の状況も参考にし、負担率を検討したい。

宝達志水町マラソンの開催について

(ほか、1件)



土上 猛 議員

町長

「町の活性化や交流人口の拡大のため支援して行きたい。」

問 宝達志水町マラソンの開催について

来年度、宝達志水町マラソンが計画されており、その準備経費として、80万円が今回の補正予算に計上されているが、その使途の内訳を聞きたい。また、このマラソンを開催するにあたり、その目的そして主催、コース、参加者の規模、また総経費は、どの程度か。なお、このマラソンを開催するにあたって町体育協会が今現在、準備委員会の中心になっていると思うが、当然、町体育協会だけではこなせるマラソンではないと思うので協力体制について確認したい。

答 町長

町では、宝達山マラソン終了以降、大きなスポーツイベントがなく町内活性化、交流人口の拡大などを目的に開催をした

ことから、来年度以降の開催に向け、今回その調査、準備にかかる経費としてお願いする。マラソンの開催にあたっては、町体育協会が中心となり、ほかに町スポーツ推進委員、町商工会長、町観光協会長などで構成される準備委員会により準備が進められており、町としてこれを支援するものである。コースは、町内一円を走るハーフマラソンの規模は約千人を想定している。また、大会経費については、未定で、今後、準備委員会で協議される。今回の補助金は、大会を主催する準備委員会へ補助するもので、内訳としては、大会開催のための企画費、コース設定にかかる調査・準備経費、事務手続等にかかる人件費などである。

再質問

大きなスポーツイベントがないとの回答については、宝達山ヒルクライムは一つの町のスポーツイベントだと考えられるし、宝達山のPRに役立っていると思う。マラソンについても町のPRを考えて取り組むべきである。

答 町長

語弊があったかもしれないが、宝達山ヒルクライムも重要であると思っている。年々、参加者も増加し、にぎやかな大会になってきており、宝達山に練習に来る人も多くなってきた。こうしたスポーツ大会を大切にしながら町の活性化に努めたい。

問 県単荒廃地復旧事業について

現在の県単の荒廃地復旧事業の負担割合が、県が4割、町が3割、受益者負担が3割となっているが、受益者負担の3割を支払う能力がない場合は、事業を実施することができない。負担区分の見直しを早急に実施すべきと思うが。

答 町長

受益者負担の支払い能力がない場合についての取り扱いは、現在、特に定めがないことから、近隣市町の状況も参考に適正な負担率を検討し、必要な点は見直しを図りたい。

再質問

一住民が非常に困っている。こういう状況であれば、周りの状況を眺める云々ではなく、町独自の課題として、負担割合を改正するべきではないか。この負担割合は、財政が非常に厳しくなってきたために、行財政改革の一環として見直しされた。しかし、受益者負担を捻出することが困難な受益者のために、すみやかに負担区分を見直すべきではないか。

答 町長

行財政改革の考えに基づき、受益者には応分の負担をお願いしたい。その一方で、負担能力がない場合には、軽減措置等を含め、これから検討していきたい。





林 稔 議員

特色のある小学校教育について

(ほか、1件)

教育長

「保護者や地域の協力を得ながら、特色のある教育に取り組んでいる。」

問 小学校教育について

町としては、小学校の教育は一番大切であり、町を発展させていくためには、魅力ある小学校をつくるのが一番だと思う。町外の人から自分の子どもは宝達志水町の、この小学校へ入学させたいと思える学校をつくる努力をしてはいかかがか。また、8月に発表された全国学力テストの結果について、宝達志水町は発表しないと新聞報道にあったが、発表できる範囲で教えて欲しい。

答 教育長

現在、各学校では保護者や地域の方々に協力していただきながら、特色ある教育を行っている。例えば、押水第一小学校では、福助菊の栽培や、やまんばおはなし会などの心を育む活動と関連させながら、確かな学力を

育み、みずから課題を見つけ、主体的によりよく解決できる力の育成を目指している。また、宝達小学校では、アサギマダラのマーキング調査等の体験活動と関連させて、自主的に学び、心豊かであくましく生きる子の育成を目指している。樋川小学校では、福祉活動と関連させて、賢く学び合い、優しく助け合い、たくましく鍛え合う子の育成を目指すなど、全ての小学校で特色ある教育を行っている。また、全国学力調査結果について、新聞では、当町は公表しないとされているが、町民に言える範囲で教えてほしいとのことだが、本来、学力調査は、学力の指導改善に役立てることが主な目的であり、結果を公表することで、児童生徒個人や当該学年の自己肯定感、学習意欲の低下等につながる弊害が予想され、また、学校の序列化等につながる、学校

問 スポーツ少年団について

小学生と深く関係しているのがジュニアスポーツである。日本のスポーツの世界で活躍している選手の多くがジュニアからスポーツ団体に入り、練習して活躍している。宝達志水町にも多くのスポーツ団体があるが、町としてどのような支援や指導を行っているのか。

答 町長

ジュニアスポーツについては、NPO法人宝達志水スポーツクラブが毎年、スポーツ指導者講習会を開催し、ストレッチ体操の重要性、子どもたちのコミュニケーションのとり方などをテーマに実技や講演会を開いているほか、各指導者と意

間に不要な競争をあおることも考えられるため行わない。

見交換をし、各団体との連携、指導者の育成を図り、競技力向上に努めている。町としても、ジュニアスポーツ教育で育った子どもたちが中学、高校の部活動でも活躍し、世界で活躍できるトップアスリートになれるよう支援していきたい。





久保喜六 議員

宝達中学校の現状について (ほか、2件)

教育長

「学力は、全国トップクラスの石川県の中で平均的である。」

問 宝達中学校の現状について

当町が合併して初めての大きな事業であり、町民の関心も高かった統合中学校。議会でも平成20年1月に中学校建設特別委員会を設け、数々の議論をし、宝達中学校として平成27年4月に開校した。その宝達中学校の現状として、生徒の学力、学校の環境、いじめ、そして、校舎の補修について聞く。

答 町長

校舎、体育館等外壁のクラックの補修や排水溝の修繕等については、18件あり、全て瑕疵であるということ、業者が負担し、改修済みである。

答 教育長

生徒の学力の現状については全国学力・学習状況調査で、全国トップクラスの平均である石川県において、ほとんどの科目でほぼ県平均並みである。

った。

いじめ及び学校の環境については、生徒に月1回のいじめアンケート及び学期に1回の教育相談を実施している。また、いじめの情報共有のため、朝の職員打ち合わせ時に生徒理解の時間を設定し、状況把握、対応について情報を共有している。

再質問

町長はフェイスブックで、コンクリートのひび割れが多数発生している、その補修費を町が多額な税金を使って修理していると発信した。これが間違っていたというのであれば、町長は公の場で正さなければいけないと思う。また、この補修の件については、宝達中学校を見守る会から、今後の安全性等のため専門知識を有した第三者委員会の設置を求め、これが実現していると思えるが、これについての見解を聞く。

答 町長

フェイスブックの発信で誤解を招いたことは、本当に申し訳なく思っている。今後は、こうしたことが絶対にならないよう心がけたい。なお、第三者委員会の設置は考えていない。

問 道路愛護デー百周年記念事業について

第百回氷見市・宝達志水町合同道路愛護デー会見式が天候不良のため中止になった。百年という歴史のあるこの事業の今後はどのようにするのか。

答 町長

記念事業については、これまでの歴史と伝統を重んじ、関係地区と協議した結果、10月中旬に記念石碑の建立を計画している。

再質問

町長は以前、自分の判断で百周年記念の事業を実施しないと発言

れたが、今の答弁内容と全く違う。なぜ、議会に相談、報告がなかったのか。

答 町長

記念事業について、様々なことを勘案し、実施にいたったが、議会に十分な説明や相談をしなかったことはお詫びしたい。

問 防犯カメラについて

小学校児童の安全安心を確保していくことから町内全小学校に防犯カメラを設置することだが、保育所、スクールバスのバス停等、町内の子どもたちが使用している施設はほかにもある。今後、保育所やバス停に防犯カメラを設置するのか。また、町民に防犯意識を高めてもらうことも踏まえ、補助金などを出し、町内の店舗、各区の事務所や一般家庭など、防犯カメラの設置台数を増やす考えはないのか。

答 町長

犯罪の抑止効果の高い公共的な場所へのカメラ設置を含めて、総合的に防犯対策の強化を検討したい。また、防犯カメラ設置に対する補助については、町が個人や団体に防犯カメラの設置補助をすることは難しい。

問 町政運営にあたっての取り組み姿勢について

前回の定例会では議案が否決となり、臨時議会で可決となった。町長はこのことを踏まえ、今定例会に議案を提出されたと思うが、今後、町政を運営していく上での取り組み姿勢を聞く。

答 町長

町民の意見や疑問を大切にし、住みよいまちづくり、活力あるまちづくりを目指したい。また、議会に対しては、丁寧な説明、誠意ある答弁を心がけたい。



小島昌治 議員

日本の子どもの6人に1人が貧困状態との政府発表を踏まえ、本町の実態調査と施策の充実を！

町長

(ほか、2件)

「国、県と連携を図りながら取り組んでいきたい。」

問 町長は、本気で「子どもの貧困対策」を推進するつもりはあるか

平成25年に日本の子どもの6人に1人が貧困状態だという政府発表を受けて、国会で「子どもの貧困対策推進法」が制定された。そして、26年度には「子どもの貧困対策大綱」が制定され、地方自治体が子どもの貧困の実態調査を行い、対策をとるよう求めている。大綱は各都道府県が作るようになっていて、石川県のようにまだ作っていないところがあり、その結果として市町が大綱に基づいた施策を作れないでいる。そこで、町議会は遅々として進まない町行政の「対策」作りに議会の役割を發揮しようと、沖繩県に視察と調査に行き、沖繩国際大学教授の比嘉教授の講義を大学院生とともに受けた。議会側の質疑の答弁の中で、先生は「対

策」ができていないとしても「今すぐにできる対策」として、小中学校にスクールソーシャルワーカーの配置と、就学援助制度の周知徹底と充実が重要との指摘をされた。そこで、町長は本気で子どもの貧困対策を推進するつもりがあるのかどうか、そしてスクールソーシャルワーカーの学校への配置と就学援助制度の充実を行う考えがあるのかどうかを聞く。

答 町長

教育の支援や生活の支援、保護者に対する就労支援など一定程度行っている。今後も国や県と連携して取り組んでいく。また、スクールソーシャルワーカーの配置は県教育委員会に要望していく。就学援助制度の周知徹底では在校生の保護者にもチラシ配布を行っていく。

問 若い世代から寄せられた子育て支援対策の充実についての提案

(1) 2人目からの学校給食費の無料化を図れないか

憲法に「義務教育の無償化」が明記されている中、全国では給食費への一部助成を行っている自治体は全1,741自治体中、417で、地方の独自施策での無償化が広がっている。県内には2つの自治体が給食費への助成を行っている。町内では学校関係者からは「国の責任で保障すべき。」との声や子どもを持つ家庭からは「生活費を切り詰めて給食費を捻出せざるを得ず、大きな負担となっている。」との声を聞く。

だと考える。そこで、実施に向けての町長の考えと実施した場合の予算について聞く。

答 町長

小中学校で2人目以降から無料にした場合、約1,500万円が必要であり、実施するとなると多額の予算が必要となると考えられることから、2人目以降の給食費の無料化は難しい。

問 (2) 病児保育の実施を図れないか

子どもが病気で体調がすぐれず、しかし、これ以上仕事を休めない時に、子どもを預かってくれるところがほしい。」と、子育てと仕事の両立で頑張っている町内の若い世代からの要望が、私のもとに寄せられており、非常に危惧している。今年、4月に、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長が「病児保育事業の実施について」と

いう通達を出している。これには事業内容、対象児童、実施要件、交付実績や実施した場合の国の補助について明記され、これを市町村が実施することを求めている。そこで宝達志水病院敷地内に病児保育室を設置することはできないか。病児保育には保育士や看護師の常駐が原則だが、病児保育室が医療機関の敷地内に設置されている場合や看護師等が病児保育以外の業務に従事している場所が近接している場合は看護師の常駐を必要としないため、病児保育を実施することが可能と考える。

答 町長

現在、病児保育や病後児保育は相見保育所内で実施しているが、病後児保育は利用されているものの病児保育の利用はないことから、宝達志水病院敷地内での病児保育は考えていない。

委員会ノート

総務産業建設常任委員会

(9月13日)

問 ふるさと農道整備事業

について、事業開始から、かなりの年数が経過しているが、相續登記はうまく進むのか。

答 これまでは、北川尻キ

の部全体を対象に相續登記を行っていたが、今後は道路用地に絞って行う予定である。

問 県単荒廃地復旧事業に

ついて、受益者負担割合の軽減をお願いしたい。

答 負担割合については、

適切な割合を検討したい。

問 産業センター管理費で

賠償金が計上してあるが、賠償金は指定管理者が支払うべきではないか。

答 指定管理者が管理している町有施設について

も全国町村会の総合賠償補償保険の対象となることから町で支払うものである。

問 災害が発生した時に町

職員の防災組織体制は確立されているのか。

答 宝達志水町地域防災計画等に基づき確立されている。

問 災害時の備蓄品は、どこに保管されているのか。

答 宝達志水町の備蓄倉庫等のいくつかの場所に留めて保存している。

問 道路愛護デー百周年事業の開催等の経緯が不明瞭である。

答 今後、議会とも相談しながらものごとを進めたい。

問 宝達志水町地域の防災計画等に基づき確立されているのか。

答 宝達志水町の備蓄倉庫等のいくつかの場所に留めて保存している。

教育厚生常任委員会

(9月11日)

問 町全体の電算システム

委託料が多い。電算関係に詳しい職員の養成をしているのか。

答 電算システムを町の職員が独自に触ることは、困難であるが基礎的なことは、業者と打ち合わせを行う中で身に付けていきたい。

問 中学校のグラウンドの

雨水が隣接する民地へ流れ込む件について、排水管を延長することで被害は解消できるのか。側溝の逆勾配も改修しないと駄目ではないか。

答 この方法については、専門業者と検討した結果こういふ形になった。これに加えて、逆勾配の改修工事を行うとすると200万円ほど工事費が嵩むため、まずは、この方法を試みる。

問 雨水の排水の側溝が内側に倒れてきているが、このような改修も含まれているのか。

答 側溝が内側に傾いているのは承知しているが今は大丈夫だといふことなのでこのまま進めていきたい。

問 排水先の川の改修をしなければ水が流れてい

かないと考える。排水を進めていきたい。

問 防犯カメラについて、

他市町では、安心・安全のため商店街や町内

管を50メートル伸ばすだけでは、他の場所でも新たに問題が発生しないのか。

答 大雨時に排水先の川の様子を確認したが、十分に余裕があったため、今の計画で大丈夫と判断した。

問 保育所は、児童を親が

玄関まで送迎しているのと、玄関は常に施錠をしているので、日常的なセキュリティは足りていると思われる。しかし、今後、必要であれば、保育所への設置も検討したい。

問 マラソン大会について

具体的な説明を求め

る。

答 体育協会を中心として準備委員会で準備を進めている。80万円の経費内訳は名称等募集のための企画費、チラシ、人件費が主なもの。今後、準備委員会で決まったことは、随時、報告する。

問 スケジュール表では、

すでに開催日も決まっ

た。



(大雨時に溢れる中学校の排水路)

ているように見える。町長答弁では来年度以降といつていたがこのスケジュール表では来年度開催することになる。そのことからこの大会と町の関わりはどうなっているのか。

【答】あくまでもたたき台であり、一般質問の答弁どおり来年度以降の実施を検討したい。当初の考えでは来年の9月頃に話は出ていたことを案として示した。町との関わりについては、実施は町体育協会で行ってもらう。町は当日のスタッフとイベントや町おこしの面で企画振興課も加わる予定である。

【問】埋蔵文化財センターの今後の管理運営について。

【答】運営については職員が国の研修等に参加し、適切に進めて行く。建物について、耐震補強の必要は全くないが、外観も含め建物が築32

年経過しているの、今後の対応の中でどこまで直していけるのか、また、その場合、補助の対象となるのか関係者とも相談しながら進めたい。

【問】地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例の要点は何か。

【委員会付帯意見】「宝達志水町マラソン開催準備補助金の交付対象は開催を目的とした事務事業に限る。」



(10月30日に開所した町埋蔵文化財センター〔旧押水図書館〕)

病院運営特別委員会 (9月8日)

【問】新病院になった現在の入院患者、通院患者数は、どの程度か。

【答】5月から7月までの3か月間の実績は、1日当たりの入院患者数は約60人で、病床70床に対し、病床利用率は約86%である。昨年の志雄病院は1日当たり入院患者が約76人、病床が100床であったため、利用率約76%であり、病床の稼働率は上昇している。外来患者についても、月平均で約140人の増となっている。

【問】志雄病院の取り壊し計画はあるのか。

【答】まず、アスベスト関連の調査を行い、その調査結果を踏まえて解体工事計画を策定したい。

【問】志雄病院の解体後の土地利用計画はどうなっているのか。宅地分譲の要望もあるが、また、土地の一部には、以前、所有者に無理をお願いして町に譲渡してもらった土地もある。その対応は。

【答】土地利用については、慎重に検討したい。無理をお願いした件については、誠実に対応したい。

【問】病院運営について、町民から意見や要望が出ていると思うが、きちんと回答しているのか。回答していないものもあると聞くが、それでは不誠実ではないか。

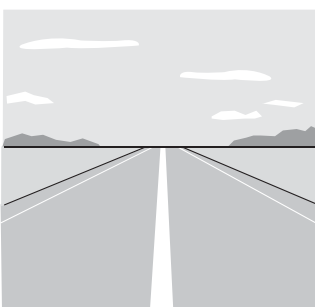
【答】回答できたもの、できないもの、それぞれある。今後、いろいろな手段で誠実に回答するように努めたい。

意見書の提出

道路整備に係る補助率等の嵩上げ措置の継続を求める意見書を国会等へ提出しました。

○要旨

道路整備推進のための長期的かつ安定的な予算の確保及び道路財特法の補助率等の嵩上げ措置を平成30年度以降も継続するとともに、必要な道路整備の推進が図れるよう、さらなる拡充等の措置を講じることを強く要望する。



議会(常任委員会合同) 視察報告

7月3日～5日

はじめに

平成27年に政府が発表した数値では、子どもの貧困率は16・3%、約6人に1人となっています。学校の給食一食だけが「一日の食事」という子どもが...

の枠を超えて、議会が一丸となって取り組むべきことです。そのために、子どもの貧困対策の『先進地』である沖縄県で常任委員会が合同で視察・研修を行いました。

視察・研修先と内容

○沖縄国際大学 (宜野湾市)

沖縄県知事の諮問機関である「沖縄県子どもの貧困対策の推進計画に盛り込むべき施策を検討する委員会」の委員であり、沖縄県での先進的な「子...



(沖縄国際大学での比嘉教授の講義)

どもの貧困」対策の中心メンバーの一人である沖縄国際大学の比嘉昌哉教授の講義「貧困が子どもたちから奪っているもの」を現地で受講し、町議会と比嘉教授及び大学院生たちとの間での質疑応答、意見交換を行いました。

携帯電話もスマホも持っていないとどうなるでしょうか、クラスの連絡やお知らせ、みんなでの遊びのお誘いも「ライン」でおこなわれます。持っていない子は周りの子からすれば「あの子変わった子だね、友達付き合いしないんだね。」というふう見え、孤立していつてしまう、この二つが絡まっていることの現代的な特徴があることを学びました。そして、「子どもの貧困」が塾やお稽古ごとへ行けない、修学旅行へ行けない、部活に参加できない、夢が描けない、高校や大学へ進学できない、十分な食事を取れないなどを導き出し、そのことが子どもから社会関係を奪い、自己形成を阻害している深刻さが明らかにになりました。極めつけは、「貧困」が「どうせ、俺(私)なんて」という自己否定とあきらめを導き、「暴力」と社会不安を増幅することが...

あきらかにされました。そのため沖縄県では「子どもの貧困」は社会全体の問題として捉え、その解決に向けて、県知事をトップとして「沖縄県子ども貧困対策推進会議」が組織され、「貧困対策計画」が策定されました。その目的には「貧困状態にある子育て世帯の保護者に必要な支援を行うとともに、そのような家庭に暮らす子どもが、社会に出て安定した仕事に就き、希望する者は家庭を持ち健全に子どもを育て、社会に貢献できる人材として育成する」とあります。沖縄県では県も県下の各市町村も研究者も本気になって「子どもの貧困」を解決しようという姿勢が比嘉教授の講義を聴いていて、感じられました。それは沖縄県が、2030年までに「子どもの貧困」の問題を解消するため、解決のための具体的施策と目標値を示したことで示されて...

「子どもの貧困対策大綱」が打ち出されています。「大綱」は実態を調査し、どのような対策をいつまでにとるのか、を求めています。本町での「子どもの貧困」をなくすため、「何をすべきか」を明らかにすることは常任委員会

講義は、まず、誰にでも目に見える現象である子どもたち一人一人の「学力の低下」や「不登校」、「高校中退」などが、なぜ起きるのかについて、子どもたちの置かれている経済的背景から説明がされました。沖縄県ではそれに基づき、子どもの実態調査を行ったことも紹介されました。実態調査を行う大事な視点として、貧困には絶対的貧困(衣食住を満たすことができない状態)と、見ようとしなければ見えない相対的貧困(その社会において「普通」とされる生活を享受できない状態)例えば、高校生が...

携帯電話もスマホも持っていないとどうなるでしょうか、クラスの連絡やお知らせ、みんなでの遊びのお誘いも「ライン」でおこなわれます。持っていない子は周りの子からすれば「あの子変わった子だね、友達付き合いしないんだね。」というふう見え、孤立していつてしまう、この二つが絡まっていることの現代的な特徴があることを学びました。そして、「子どもの貧困」が塾やお稽古ごとへ行けない、修学旅行へ行けない、部活に参加できない、夢が描けない、高校や大学へ進学できない、十分な食事を取れないなどを導き出し、そのことが子どもから社会関係を奪い、自己形成を阻害している深刻さが明らかにになりました。極めつけは、「貧困」が「どうせ、俺(私)なんて」という自己否定とあきらめを導き、「暴力」と社会不安を増幅することが...

あきらかにされました。そのため沖縄県では「子どもの貧困」は社会全体の問題として捉え、その解決に向けて、県知事をトップとして「沖縄県子ども貧困対策推進会議」が組織され、「貧困対策計画」が策定されました。その目的には「貧困状態にある子育て世帯の保護者に必要な支援を行うとともに、そのような家庭に暮らす子どもが、社会に出て安定した仕事に就き、希望する者は家庭を持ち健全に子どもを育て、社会に貢献できる人材として育成する」とあります。沖縄県では県も県下の各市町村も研究者も本気になって「子どもの貧困」を解決しようという姿勢が比嘉教授の講義を聴いていて、感じられました。それは沖縄県が、2030年までに「子どもの貧困」の問題を解消するため、解決のための具体的施策と目標値を示したことで示されて...

います。そのために、沖縄県にある企業の大小を問わず、寄付金をはじめとする協力体制が出来上がっていることも驚きでした。

最後に比嘉教授は「子どもの貧困」解決のためにも、身近な制度を利用できるようにしよう。特に「子どもの貧困」解決の入り口ともいえる「就学援助制度」の周知徹底で、「利用できる人が利用できるようにすること」の大切さを訴えられました。沖縄県ではこの就学援助制度の周知徹底のためにテレビやラジオでのコマーシャルが流されていることが紹介されました。「子どもの貧困」を県全体で本気で無くしていこうという思いが伝わってきました。また、「見えない貧困」を見つけ、困難に直面している子どもの背景に注目し、解決のために環境へ働きかけ、問題を解決する起点となるスクール

ソーシャルワーカーの学校での配置の必要性も強調されました。

平成25年に国会で制定された「子どもの貧困対策の推進に関する法律」

は解決のための「4つの処方箋」を提起しています。一つは、子ども食堂などの「食の保障」。2つ目には、「学習権・進学権の保障」。3つには、「経済的保障」。4つには若者が働き続けられる労働環境の整備」です。

〇ていーだ子ども食堂 (浦添市)

今回、町議会は子どもの「食の保障」を担っていると考えた「子ども食堂」の視察のために浦添市にある「ていーだ子ども食堂」を訪問しました。ところが、私たちが「食の保障」とみなした「子ども食堂」が、それだけにとどまらない取り組みを行っている説明を聞き、「子ども食堂」に対する認識を新たにさせられま

した。その特徴は、近くの小学校のPTA(浦添小学校)の活動方針(浦添小学校の児童が生きる力をはぐくむことを応援する)に基づいて、①子どもが、いきいきと学べる学校運営を「お手伝いする」、②子どもを通わせたい学校環境作りを「お手伝い

する」、③地域が支えたい学校づくりを「お手伝いする」というPTAの3つの行動指針に基づき、PTAが運営する「子ども食堂」だということ。『ていーだ子ども食堂』の活動方針も私たちにとても想定外で、『この場所が子どもたち



(ていーだ子ども食堂で説明を受ける議員)

の自尊心を回復し、自立への学びを促し、心と身体を休める居場所を提供し、自己肯定感を育む。もって、『地域の健全育成に寄与することを目的とする』とありました。沖縄国際大学で比嘉教授の「貧困が最後には『どうせ俺(わたし)なんて』、『どうせ、俺(わたし)の息子(娘)やから』という自己否定とあきらめが、暴力と社会不安を増幅する」という講義を思い出しました。「子どもの貧困」解決は、その状態に陥っている子ども問題の解決だけでなく、地域の健全性を保持していく大きな役割があるということを学ぶ場となりました。事業内容は、子どもとの共同調理と会食を通じた子どもの居場所作り、生活習慣や学習習慣を育む活動が行われ、また、その時々の子どもの現状を考慮した取り組みも行われています。このPTAを中心に

した「子ども食堂」の取り組みで、親や先生にもいわない家庭環境の悩みの本音を、児童館の職員やボランティアに参加している大人に語り始めたり、この場所で習った料理を忙しいような母親に作ってあげたという話をし始めたり、「高校なんていけない」と言っていた子が英検に合格し、高校受験をめざすようになったりしていることを聴きました。

沖縄国際大学の比嘉教授をはじめとする研究者の方々、沖縄県知事や県の職員、浦添市の企業や団体の方々、小学校のPTAの方々の「子どもの貧困」解決に向けた、熱い意気込みに触れた視察でした。

最後に、「子どもを貧困のままにしておく地域でいいのか」、これが「沖縄県の視察」が私たちに提起した中身でした。

町議

会日誌

7月～9月

〔7月〕

3日～5日

常任委員会合同視察（沖縄県）

13日

河北・なぎさ千里
浜海岸保全期成同盟会（羽咋市）

千里浜海岸保全・
利活用推進協議会
総会（羽咋市）

14日

今浜海岸海水浴場
浜開き（今浜海水
浴場）



（海水浴場の安全を祈願する参列者）

能登総合開発促進
協議会理事会・総

19日

議会運営委員会
議会全員協議会
第2回臨時議会

会（県庁）

広報編集特別委員
会（役場）



（郡市広域圏事務組合第2埋立処分場）

22日

県民体育大会選手
結団式（役場）
ふるさと人口対策
特別委員会

28日

（役場）

30日

かほく市議会議長
就任祝賀会

（かほく市）

〔8月〕

1日

県戦没者慰霊式
（金沢市）

2日

のと里山空港の機
能強化にかかる要
望活動（東京）

5、6日

県民体育大会
（金沢市外）

7日

郡市広域圏事務組
合議会運営委員会

8日

町戦没者追悼式、
慰霊祭（役場）

9日

議員・監査委員合
同研修会

10日

教育厚生常任委員
会（役場）
（津幡町）

11日

町国際交流推進事
業結団・出発式（役
場）

18日

県民体育大会報告
会（ウエルネス能
場）

15日

議会運営委員会
第3回定例会閉会
（役場）

登路）

22日

議会運営委員会
町社会福祉大会
（役場）

23日

県消防団等公務災
害補償組合議定会
例会（金沢市）

29日

RD F組合議定会
例会（志賀町）

23日

郡市広域圏事務組
合議会定例会
（羽咋市）

29日

議会全員協議会
（役場）

24日

敬老会（志雄地区）
（志雄小学校）



（敬老会の催しを熱心に観入るお年寄り）

26日

県町村議会議長会
協議会、監査会
（志賀町）

28日

郡市広域圏事務組
合議会決算特別委
員会（羽咋市）

渚会理事会
（ちどり園）

広報編集特別委員会

- 委員長 小島 昌治
- 副委員長 守田 幸則
- 委員 金田 之治
- 委員 久保 喜六

議事を傍聴しませんか

平成29年第4回町議会定例会が12月14日に開会します。傍聴定員は21名で、先着順で受け付けします。（電話等での事前予約はできません。）

受付は午前8時30分から役場3階の議会事務局で行っています。

※傍聴の際は受付に掲示してある議会傍聴規則の順守をお願いします。

問い合わせ

議会事務局 TEL 29-8310



この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています。E3PA：環境保護印刷推進協議会

この広報は高精細340線で印刷したものです。